

令和 8 年 6 月 3 日 通告

(一般質問)

質問日	令和 8 年 6 月 1 2 日 (金)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	自由民主党浜松	議席番号	15	氏名	神間 郁子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 若者政策の展開 について	<p>昨年度、地域への関心を高め地域愛を育み、成長後の居住や地域とのかかわりを促し、若年層の転出抑制と転入増加につなげるため、「浜松学のあり方検討委員会」を 4 回開催し報告書がまとめられ提言が示された。</p> <p>市長は、3 月に市内や周辺にキャンパスを構える大学との協議体設立に向けた意見交換会を行った。</p> <p>また、若者政策の司令塔として政策の推進を担う教育・若者連携推進担当課長をおき、各部局で実施する若者を対象とする施策と連携を図る、としている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松学のあり方検討委員会の報告書における提言を受け、本市の若者政策にどのように活かしていくのか。また、若者政策の庁内連携について伺う。</p> <p>(2) 市内大学連携プラットフォームの設立の目的と目指す将来像を伺う。</p>						中野市長
2 若者の就労と定着に向けた取り組みについて	<p>若者の市外への流出は進学期や就職期に多く見られる。元気なまち浜松のためには、将来的に若者が本市の企業を選択し、この地に定着してもらうことが重要である。特に、進学や就職を選択する前の高校生やその保護者に対して、本市の企業の価値や魅力を知ってもらうための取り組みの強化が求められる。</p> <p>そこで、本市の高校生と地元企業とをつなぎ、若者の地元企業への就労や定着につながる具体的な取り組みについて伺う。</p>						北嶋産業部長
3 価値ある学校に向けた取り組みについて	<p>本市の不登校児童生徒は令和元年度から令和 7 年度にかけて約 2 倍に増加している。また積極的ないじめ認知により、いじめ対応の件数も増加傾向にある。</p> <p>こうした現状を背景に、学校が対応すべき問題や教職員が担う業務は多様化・複雑化しており、それに伴う教職員の時間外在校等時間の増加、高ストレス者の増加が課題となっている。</p> <p>第 4 次浜松市教育総合計画の基本理念である「描く夢や未来の実現」や、浜松市教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画～あかるく・いきいき・みりよくある学校創造プラン～に掲げる、「価値ある学校」の創造を実現するためには、子供や子供の成長を支える教職員のウェルビーイングを向上させる、いじめ・不登校を出さない魅力ある学校風土づくり、教職員の働きがい改</p>						野秋教育長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>革が重要であると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 教育長の掲げる「価値ある学校」とはどのような学校か伺う。</p> <p>(2) いじめ・不登校の未然防止について、不登校支援の担当を指導課に移管した意図や、データ分析の活用など具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>(3) 教職員の働きがい向上に向けた取り組みについて伺う。</p>	
4 休日の中学部活動の地域展開に向けた取り組みについて	<p>休日の中学部活動において、本年9月からはまクル認定クラブの活動がスタートする。昨年度末に、はまクルガイドラインを策定し、4月からはまクル認定クラブの申請が始まり、現在は第二次の申請受付を行っている。</p> <p>地域展開していくにあたり、単に現在の部活動の地域展開だけでなく、部活動にこだわることなく、多様な活動が展開され、生徒たちの選択肢として示されることが求められる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 現在の登録状況と、今後の見通しについて伺う。</p> <p>(2) 多様な活動機会を提供するための取り組みについて伺う。</p>	吉積学校教育 部長
5 部活動等の移動における安全管理について	<p>本年5月に発生した、高校部活動遠征時の交通事故は、改めて、校外での活動における生徒の安全を確保する体制整備に警鐘を鳴らす事案となった。</p> <p>事故を受け、本市においても現在の部活動の遠征時の移動について調査するとともに、部活動を含めた校外活動についても、改めて安全確保のため必要な対応をすべきと考えるが、以下伺う。</p> <p>(1) 部活動の遠征時の移動の実態について伺う。</p> <p>(2) 部活動を含めた校外活動の移動について、今回の事故を受けての本市の対応を伺う。</p>	吉積学校教育 部長
6 学校施設整備方針について	<p>本市における学校施設は、市が所有する公共施設の延べ床面積の36%を占め、そのうちおよそ70%が築40年以上を経過し、老朽化が進んでいる。</p> <p>一方で、新しい時代に対応した高機能で安全・安心な教育環境の構築や、特別な支援を要する児童生徒への対応のほか避難所利用、地域利用といった社会的ニーズも広がっている。</p> <p>2025（令和7）年3月に策定された、浜松市小中学校施設整備適正化方針及び同整備計画では、こうした現状や課題をふまえ、施設老朽化、教育環境の向上等に一体的に対応した学校施設整備の推進が示されている。</p>	吉積学校教育 部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>計画が策定され1年が経過する中、計画に基づく現在の状況と具体的な取り組みを含めた今後の小中学校施設整備についての方針を伺う。</p>	
<p>7 高齢者の孤立を生まない体制整備について</p>	<p>今年度、25年にわたり多くの高齢者に健康維持と交流の機会を提供してきた「元気はつらつ教室」が中央区において終了する。</p> <p>今回、継続を求める声が上がったことは、この事業が長年いかに「生きがい」や「孤立解消」に寄与していたかという証であって、まさに高齢者に求められる生活の拠点、居場所であったということに他ならない。</p> <p>だからこそ、民間サービスへ移行して終わりではなく、住み慣れた地域での居場所事業の充実と、高齢者の孤立を生まない体制整備の強化が急ぎ求められる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) ふれあい交流センターの活用状況を含めた、高齢者の居場所の現状とそれに対する課題をどのようにとらえているか伺う。</p> <p>(2) 高齢者の居場所の増設や、通うための移動の手段の確保といった、高齢者の孤立を生まない体制整備の強化についての考えを伺う。</p>	<p>新谷健康福祉部長</p>
<p>8 リ・デザインにおける地域バスの位置づけと維持に向けた取り組みについて</p>	<p>現在、地域バスは天竜区、浜名区の13地域で運行しているが、その維持基準である収支率が地域の負担になっている。</p> <p>今後、地域バスをどのように位置づけていくのか。また、地域負担を考慮する中で、市民の移動手段を維持するための取り組みについて伺う。</p>	<p>濱田都市整備部長</p>
<p>9 津波避難タワー・津波避難ビルについて</p>	<p>津波避難ビルは、公共施設のほか、民間ビル所有者の協力のもと市との協定により登録されており、緊急避難の場所の提供を目的としていることから、食料・水・衛生用品などの備蓄品の配備までは、求めている。</p> <p>津波警報が長時間に及んだ場合や、実際の津波の浸水にあっては避難ビルでの孤立が想定され、脱水症や熱中症といった二次被害を招くリスクがある。</p> <p>こうしたことから、津波避難タワー・津波避難ビルに緊急避難時を想定した避難物資の配備が必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 昨年度、津波避難タワー・津波避難ビルを使った避難訓練が行われたが、その状況と、そこから見えた課題と対策について伺う。</p> <p>(2) 民間の津波避難ビルへの避難物資の配備についての考えを伺う。</p>	<p>清水危機管理監</p>